

人間の経済

第2期 第 **13** 号 (通巻91号) 2005年4月15日刊

目次

ゲゼルのいう自由経済ってなんだろう

—生産高と金利の関係から—

森野 榮一

[wija/iWAT Tips]
wija で音楽を楽しむ

森野 榮一

ゲゼルのいう自由経済ってなんだろう

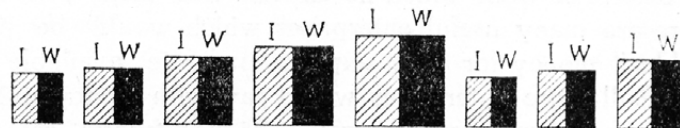
- 生産高と金利の関係から -

森野 栄一

私たちが暮らしている経済では、価格が上昇すると生産が増加します。新しい企業やすでにある企業の拡張が、収益が上がるようになるので出現することになります。そこで雇用者はいっそう借入れを増やそうと準備し、彼らの事業はうまく進行し、彼らが銀行に求め受け取った資金にはいっそう高い金利を支払うことができるようになります。そして賃金もまた労働需要が増加しますから、上昇していきます。

反対に物価が下落すると、生産は停滞します。新規企業の創設や既存企業の拡張は支払いの困難に遭遇し、破産します。パニックの期間の一時的な高利が過ぎると、銀行は低利に甘んじなければなりません。それで銀行の顧客は余裕をもつことができますが、失業は拡大し賃金は下落するでしょう。

< 資本主義のもとでの利子と賃金 >

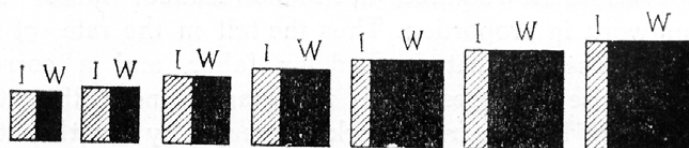


I は利子、W は賃金

このそれぞれの四角は一年間に労働が生産するものを表しています。左側の斜線の部分は利子の受け取りをなすものにもたらされる額を表しています。右側の黒塗りの部分は賃金を稼ぐ人々にもたらされる額を示します。物価が上昇する間、それぞれの分け前は拡大します。そして経済危機が訪れると最低の水準にまで落ち込みます。例えば金本位制の時代やその後の貨幣システムのもとでも貨幣が退蔵されるような仕組みのなかでは、このサイクルは避けがたいものです。

ところが貨幣保有に持ち越し費用がかかるような自由貨幣（スタンプ貨幣）のシステムのもとでは（マイナスの利子システムのもとでは）、事物の運行はまったく異なってきます。

< 一国的自由経済のもとでの利子と賃金 >



ここでは利子と賃金は最初、二つとも上昇します。しかしすぐに利子は下落を始めます。賃金を稼ぐ人々の分け前は事業者に支払われた賃金も含めて上昇します。しかし賃金稼得者の分け前は次第に大きくなっていきます。利子受領者の分け前が減少する必要はかならずしもありません。その相対的分け前は漸次低下していくからです。これは通貨の安定と自由貨幣の効果です。金利が下落するとき、生産は増加します。しかし利子として支払われた総額は減少する必要はありません。より多くの貨幣が減少していく低利で借り入れられるからです。

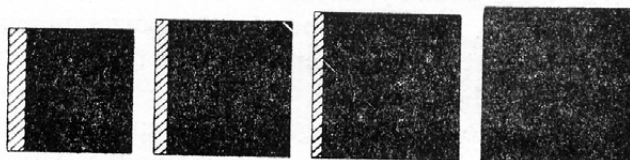
利率が減少していくと生産が増大するわけは簡単に説明できます。利率が4ないし5%であれば、どのような資本家も4%以下の収益しか期待できない事業に資金を投じないでしょう。しかし事業用資金が3%で利用できる場合、収益があがる多くの事業が存在することになるでしょう。2%で資金が利用できればなおさらです。どの企業も利率が低いレベルに達するまで待たねばなりません。信用供与者は4%の利子支払いを期待しているかぎり、3%で貨幣を貸し付けることはないでしょう。彼らが3%の利子支払いを期待していれば、2%で貸し付けることはないでしょう。しかし利率の全般的な下落によって、どの借り手も3%や2%より以上の利子支払いを強いられなければ、貸し手は3%ないし2%で資金を貸し付けるほかないでしょう。ふつうなら貸し手は資金を貸し付けずに安全に貨幣を保持し続けることができるでしょう。しかし自由経済の体制では貨幣は持続的に減価を被りますから、貨幣を保有していると持続的に損失が発生します。それは利子ゼロよりも貨幣保有者には打撃となることでしょう。

利率が永続的に下落していくのであれば、社会的に意義ある生産活動をする多くの企業が操業できることになるでしょう。あらたな通信インフラの提供や工場、造船、水力発電、土地改良、福祉事業などがそれです。そしてこうした事業で必ず労働が必要となるでしょう。それも肉体労働ばかりか頭脳労働も必要になるでしょう。利率の低下は大きな労働需要を生み、そしてそのゆえに賃金の上昇をもたらすでしょう。増加する労働所得が減少する利子からの所得よりはるかに大きくなることは注目されるべきでしょう。労働所得には利子の減少していく分け前が追加されるだけでなく、増大する全体の生産の分け前も配当されていくのです。

誰もこれがこれまで実現されたことがないから不可能であるなどとは言わないでしょう。飛行機もX線もコンピュータもかつてはけっして実現されたことはなかったのですから。この考えは世界を動かす考えです。こうした思考の流儀が放棄されてはなりませんし、すべてが熱心にかつ客観的に検証されなければならぬわけです。そして私たちが見つけなければならないのは新しい観念の健全性でしょう。もしそれが間違っているなら誤謬を認め過去のものとしてされていくでしょう。もしそれが健全であるなら、私たちはその実現を望むことでしょう。

将来を展望し、一つの国が自由経済を採用し経済繁栄を手にするばかりか、国際的にも同じ改革が導入され、資本利子が損失を被りゼロにまで下落するとしましょう。そうすると先の図で示した経済発展はこうなるでしょう。

< 国際的な自由経済のもとでの利子と賃金 >



左側の資本利子はその相対的な比重を低下させながらついにはゼロとなり消滅します。ここに至り、ケインズのいう金利生活者の安楽死が完成します。ここで、こうした自由経済を共産主義と比較してみましょう。

< 共産主義のもとでの賃金 >



共産主義ですから資本利子は当然存在しません。労働者は労働のすべての生産物を等しく分けることになります。平等な分け前です。しかしその分け前はたいへんわずかなものです。わたしたちがみた現実の共産主義ではこの分け前も平等ではなく、共産党官僚が収奪していました。

共産主義は万人にとっての貧困を意味します。

資本主義は少数者の富裕と多数の貧困を意味します。

自由経済は万人の繁栄を意味します。

社会的正義の実現

自由土地と自由貨幣がもたらす経済発展によってほとんどの社会主義者が夢見てきたことが、生産の国有化なしに、実現されます。労働者の搾取は賃金が上昇し、利子が下落することで終わりを迎えるでしょう。なおかつ物価は安定しているのです。つまり、生計費が高騰することはないでしょう。地代も万人が使うものとなるでしょう。

ただ一つの国だけが自由経済を適用するだけでは利子率はゼロにまで低下しないことは認めなければなりません。一国内で、経済危機のリスクがなく、貨幣購買力の減少もない経済的安定性のゆえに、利子率がどの国よりも低くなるでしょうが、しかし金利の差が大きくなればなるほど、資本輸出が盛んとなるでしょう。しかしそれはいかなる不利益もないでしょう。なぜなら利子の重荷が外国人によって担われることになるからです。もちろんその国に利子率はゆっくりと下落しますが、永遠にゼロを上回っているでしょう。資本家的搾取は消滅するでしょうが、自由経済を最初に適用した国は他国よりも急速に経済力を付けることでしょう。自由経済を適用する国が増えるほど利子率の下落は大きくなり資本家的搾取は姿を消していくことになるでしょう。

自由経済は資本主義のなかで価値あるものであったものを保持します。すなわち、分業、自由競争、私企業、大規模生産などを、です。しかし資本主義の不公平で不健全な部分を除去します。とりわけ、地代や利子のかたちでの不労取得を除去します。貨幣と土地を除き、また、その他の少数の独占体、つまり鉄道や郵便事業を除き、なにも国有化されません。その他すべての企業体は自由競争のもとにおかれます。

こうした経済システムがあらゆる特権を除去します。成功はただ個人の努力と能力にかかっています。

自由経済は国家の官僚制の危険と増大し続ける権力を削減します。不労取得は階級的な苦しみと国際摩擦を引き起こします。そして国家の立法権の濫用が不労取得の保護のためになされます。その他の立法も不労取得の利害対立を調和させるためになされるのです。現代の国家が社会主義と対立する理屈に立ちながら、実際は、国有化の基盤に立っていることは注目すべきことです。現代の国家は課税を通して個人の所得の大部分をコントロールし、しだいに個人の権利を傷つけ、個人に日々の生活の大部分を決定しています。自由経済によって、不労取得とそれを保護するための立法は消滅するでしょう。国有化という不効率な原理は個人のイニシアティブという自然の原理に置き換えられるでしょう。国家は独裁的であることを止めるでしょうし、公益への奉仕者として有用なものに変わっていくでしょう。

利子から自由な経済システムのもとでは、老齢や病気への備えは貯蓄の利子からではなく貯蓄それ自体を活用することから生まれるでしょう。その一般的形態は年金です。労働しえず利子で生活する病弱者はしばしば資本主義の支持者によって引き合いにだされます。しかし病弱者の数は相対的に少なく、全体の利子総額のなかでは無視しうるものでしょう。自由経済のもとでは病弱への備えは増大することはないでしょう。大多数の勤労者は自由経済のもとで効率的に貯蓄することになるでしょう。彼らが現在貯蓄している金額はあまりにも少なく、彼らが受け取っている利子は、自由経済のもとでじぶんが貯蓄した結果として老境になって受け取る年金と比較してみればあまりに少ないものでしょう。

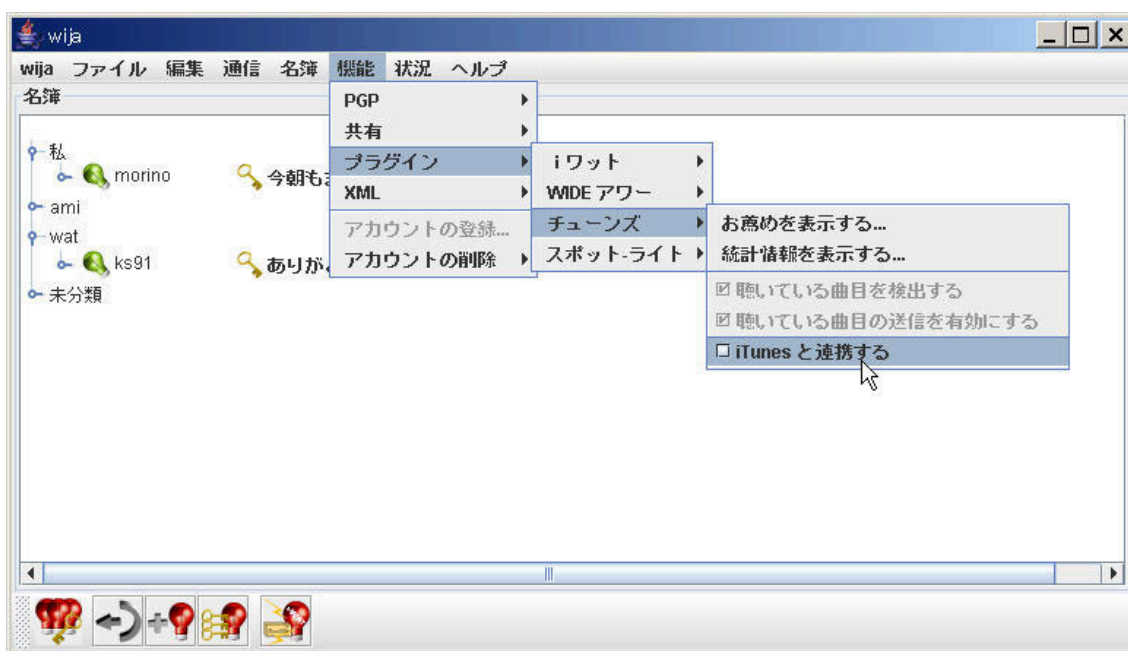
[wija/iWAT Tips]

wija で音楽を楽しむ

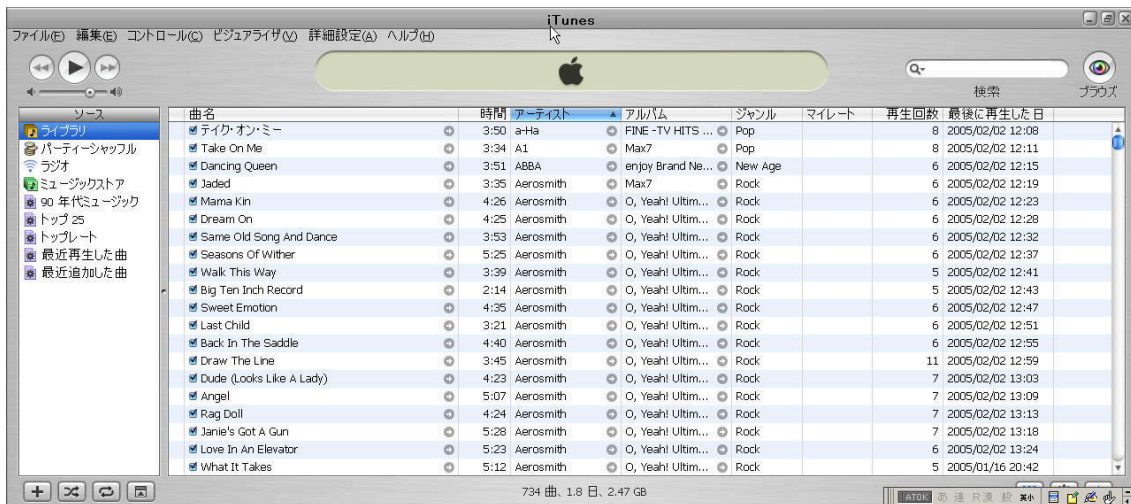
音楽が好きでアップルの iTunes をお使いの方も多いと思います。

Wija/iWATでは、この iTunes を制御できますので、音楽をいっそう楽しく楽しむことができます。

Wija の名簿画面で、「機能」「プラグイン」「チューンズ」「iTunes と連携する」にチェックをいれます。



すると、iTunes が起動しました。



お気に入りの曲を再生してください。

そうすると、Wija のネットワークでオンラインにしている仲間たちに、こんな、自分のコンタクト画面が開かれます。



よさそうな曲だと思ったらそのファイルを手に入れたりできるといいのですが（それはできるようなっているようですが、著作権の問題に触れる可能性があるので、できないそうです）、それができなくても、誰それが聴いている素敵そうな曲に関する情報を「Web 検索」で調べることができます。

また、「お勧めを表示する」をクリックすると、仲間たちが好んで聴いている曲を教えてください、



「統計情報を表示する」をクリックすると、お友だちの統計情報を知ることもできます。

ITunes をオフにするには、「iTunes と連携する」をクリックしてチェックをはずします。
(森野 榮一)

編集・発行 **ゲゼル研究会**

221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321森野榮一気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> info@grsj.org

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず